

平成28年8月15日、市長から政策秘書課職員に対し、「福祉とは？」との問い掛けがありました。

これからの「福祉」

「福祉」という言葉を聞いて、あなたはどんなことを思い浮かべますか？

多くの方は、「福祉」とは、何らかの対応や援助を必要としている方に対し、「何かをしてあげる」または「何かをしてもらう」という制度のことではないでしょうか。

私は、市長になる前、介護に携わり、利用者の方々の食事や入浴、排せつの介助等をさせていただきました。その経験の中で、制度の中で対応する「福祉」も当然必要ですが、利用者の方が本当に求めている「福祉」は、制度の中でやってもらうことだけではないと感じていました。

利用者の方は、「家族が会いに来てくれる」「人から声をかけてもらえる」「話をじっくり聞いてもらえる」「人の役に立てることがある」ことなどで幸せを感じていらっしゃいました。

介護施設では、利用者の方々に喜んでいただくこと、数多くのイベントを行いますが、中にはそうしたイベントが「楽しくない」という方もいらっしゃいます。制度の中の「福祉」だけでは、そうした利用者の方の心の中までは、どうしてあげることができません。

利用者の方々に楽しんでいただく、幸せを感じていただくために、あの手この手を考えることが、これからの「福祉」です。

あの手この手を考えるには、時間がかかります。施設の職員だけで考えてもアイデアが浮かばなければ、地域やボランティアの方にも関わってもらうことで、制度にとらわれない自由な発想で、一人ひとりに寄り添った「福祉」が生まれ、様々な人が混ざることによって、多くの人に役割が生まれます。

これは、施設内での話ですが、同じことが地域でも言えると思います。

地域の人たちが、地域に暮らす人の幸せを、あの手この手で考えることがこれからの「福祉」のあり方です。

自分が生活する地域のことを考え、その地域で行動する人が増えることで、時間はかかるかもしれませんが、制度の当てはめだけではなく、一人ひとりの困りごとに寄り添うことができるようになり、住み慣れた地域で幸せに暮らし続けることができるようになるのです。

過程こそが面白い

地域で、地域の困りごとを解決していくことは、本市でも将来、必ず起こると言われている自然災害に対応するためにも必要なことだと考えています。

小学校区単位の見える範囲で、顔を突き合わせて話し合い、あの手この手で解決していくことは、非常にわずらわしいことです。しかし、そうしたわずらわしいことを積み重ねる過程こそが、人づくり、地域づくりであり、まちの底力を強くしていくことです。

小学校区単位など、顔の見える範囲でのまちづくりに向け、既に地域のみなさんにも、お骨折りをいただいています。

その一例として、各小学校区での夏祭りがあります。これまでに実施していた西小、北小、市が洞小学校区に加え、今年からは南小校区でも始まりました。その他の地域でも、昔からの祭礼や盆踊り、校区運動会等が続けられています。市民同士が知り合い、交流する場を、苦勞しながらも市民のみなさん自らで作り出していただいていることは、感謝の念に堪えません。



まちづくりは、施設や道路の整備のように、すぐに成果が目に見えるものではありません。また、まちづくりには、正解や完成がないからこそ、「こうした過程が面白い」と、これまでに地方創生担当の石破前大臣に視察いただいたほか、マスコミの取材も数多く受けてきました。本市のまちづくりが、全国でも注目を集めていることに、市民のみなさんにも気づいていただき、ぜひ、その一員として参加していただきたいと思います。

一方で、本市の課題の一つとして、情報の共有や情報伝達がうまくできていないことがあげられます。市主催、市民主催等のさまざまな行事が、毎週のように行われていますが、その周知は、広報やホームページだけでは不十分だと感じています。

そこで、みなさんには、ご自身が講座や催し等に行かれる際には、友達やご近所さんを「一緒に行きませんか？」と誘っていただけませんか。口コミは非常に大きな力であり、高齢者にとっては、誘われることが外出のきっ



かけにもなります。ぜひ、ご協力をお願いします。

誘ったり、誘われたりすることは、互いにあいさつを交わす以上にわずらわしいことかもしれませんが、そうした積み重ねも、顔の見える関係づくり、まちづくりの第一歩になります。

まだまだ道半ばではありますが、こうしたわずらわしいことの積み重ねが、超高齢・

人口減少社会に対応するためには、どうしても必要であることを市民のみなさんにご理解いただけるよう、今後も発信するとともに、取組を続けていきます。

～市長の話を聞いて～

先日、私から「講演会があります。」という周知メールを数人に送ったところ、「あなたに誘われたから」と言って来てくれた方がいらっしゃいました。自分が誘ってきてもらえるとうれしい反面、自分が誰かから誘われて行けないときは、断るのが面倒なときもあります。市長が言うように、誘うのも誘われるのも、わずらわしい面がありますが、これまでは、「誘われたから仕方なく行く。」と乗り気じゃない場合でも、結局、最後には「来てよかった。楽しかった。」と思うことの方が多かったです。

私自身は、お誘いできる知人、友人は、まだまだ少ないですが、少しずつ増やしていきたいと思っています。